

5 団 だ より



2013年「バザー」のセレモニーより。

スカウト活動の醍醐味

団委員長 當麻洋一

山鳩の歌 (作詞・作曲 中村 知)

1. 空は青空 綿雲浮かび
谷にさらさら 瀬の音聞こゆ
友と二人 山路(やまじ)を行けば
山鳩鳴くよ 照る日はうらら
2. 山の夕暮 俄(にわか)に暮れて
森は黒み 山肌白し
友と二人 谷間にくれば
清水はむせび 夕風薫る
3. 森の宿(やどり) かがりの煙
建てしテントに 月影して
友と二人 今宵のねぐら
星影きらきら 美空は近かし

本団のボーイスカウト以上の部門で、昔からよく歌われているスカウトソング「山鳩」の歌詞を掲げました。この歌、正確には「山鳩の歌」という名称で、作詞・作曲を手掛けた中村知(なかむら・さとる

明治26～昭和47)氏は、「ちーやん」の愛称で親しまれた我が国におけるスカウト運動のパイオニアの一人です。

私も、ボーイ隊に上進した時から、このソングには親しんで来ましたが、「ああ、いい歌だなあ」と実感を伴うようになったのは随分時間が経ってからです。経験を積んだ年長のスカウトが二人、パディを組んで移動キャンプをしている様子が、素朴な歌詞の中から鮮やかな実像となって頭の中に浮かんできます。

でも、この歌詞を読んでリアルに「実像が浮かぶ」のは、実際に「友と二人」、または三人といった小人数での移動キャンプをした経験を持つ者だけの特権だと、私は密かに自負しています。特に私は三番の歌詞から、月明かりだけが差す漆黒の夜の森で、焚き火を囲み談笑する風景を連想します。「これぞ、スカウト活動の醍醐味!」、太鼓判を押せる名シーンですが、そこに辿り着くまでには、ビーバー隊やカブ隊といった年少部門、そしてボー

イ隊時代にそれなりの努力を積みなければなりません。

まず、テントも含めて一切合財の装備を自分で背負い長距離を歩ける体力。次に、テントを建てる、火をおこす、食事を作る、といった作業を、同輩と二人で安全・確実に完遂できる技能。そして、心身に降りかかる困難や辛さに打ち克ち、この素晴らしい一夜の宿を与えてくれた大自然に感謝できる、強く豊かで素直な心。この三つが備わり初めて味わえるのが「山鳩の歌」の世界です。

この夏も、本団の年長スカウトたちは、小グループでの遠征に出かけました。そこにはきっと、彼らだけしか知り得ない、深いスカウティングの味わいがあった筈です。

これからも沢山の後輩スカウト諸君に、この素晴らしい「スカウト活動の醍醐味」を体感して欲しいものです。そのためには、先ずは、各部門における日々の地道な活動がしっかりと展開されるよう、全団が力を合わせて取り組んで行きましょう。

BVS

ビーバー隊

私たちのこの1年



お姉ちゃん(愛麻スカウト)と駿くん(宮井スカウト)と諒くん(酒井スカウト)が火をつけたキャンプファイヤーが楽しかった。虹を手話で歌ったり、いろんなことが見れて楽しかった。カブにいったらいろんなことをやりたい。楽しみたい。

高田 廉

たのしかったです。とくににんじゃごっこが、たのしかったです。でもビーバーでドックボールができないのがざんねんでした。

作山 耕平

カントリーの時、たばこのゴミが多かった。そしてほかのゴミもおちていた。いやな気持ちになるから、すまないでほしいと思った。

高橋 寛人

わたしが、このかつどうでたのしかったことは、いそあそびです。こうへいくん、わんくんとなかよくあそべてよかったです!

井上 留美音

ビーバーフェスティバルで宇宙人に会えて「わちにんこ」で話せたのが嬉しかったです。あと、ナイトハイイクで探検しながら必要な道具を探したのが楽しかったです。

岩田 礼夢

キャンプでの川遊びが楽しかった。

関谷 章馬

楽しかったことはキャンプファイヤー。

大磯 遼

ビーバーフェスティバルが面白かったです。これからビックビーバーになるからしたの子の面倒をみていきたいです。

波多野 雅

凧を作ったことが一番楽しかった。自分が作った凧が飛んで嬉しかった。

岩澤 良真

ハイキングをして、虫や草花を観察したり、もつともつと、たくさん、木登りがしたい。

秋山 紗良

楽しかった活動は、ヒンメリで船を作った事です。隊長からもらったマフィンがとても美味しかった。

入内島 りり

ハイキングが、一番楽しくて皆で登れて楽しかったです。まだ僕がビーバースカウトに入っていない頃だったから疲れたけど、色々ドングリとか見つけられて良かったです。

大久保 勇作

早くビックビーバーになりた〜い!

中村 建二郎



(保護者の方から)

楽しかった思い出は源氏山へのハイキングです。険しい山道を子どもたちと登りきれてとても清々しい気持ちになりました。

【岩澤 香織】

二年半程、ビーバーの活動に参加させて頂きました。二年半程、ビーバーの活動に参加させて頂きました。お世話になりました皆様に感謝申し上げます。耕平はビックビーバー連絡が来ると一生懸命ノートに書き込みをしています。活動日の支度も言われないうちに整うようになりました。小学生になり憎まれ口やヤル気ない言葉を言うようになりましたが、ビーバー活動は楽しいことのひとつになったようです。見守って下さった皆様のお陰だと思っております。ありがとうございます。上進して更に飛躍出来るよう保護者として彼を見守って行こうと思います。

【作山 真樹子】

この一年もいろいろな体験をさせて頂きました。楽しい活動の中には今は分からなくても、この先いつか役に立つことがあるはず。忘れないでいて欲しいと思います。

【高橋 禎江】

ビックビーバーになって、だいぶしっかりと活動できるようになりました。指導者の皆様のお陰m(__)mと感謝の気持ちでいっぱいです!!カブからはまた楽しい報告を期待します☆

【井上 恭子】

活動を通じて、色々な事を一人で出来るようになり、積極性が強くなった様に感じ

(リーダーから)

よりよい活動になるように、あーでもない、こーでもない、と皆でスカウティングを楽しみましょう。

【隊長・守田 智恵】

一年が経つのも早く、あっという間に過ぎてしまい、スカウト達に、何か思い出になる活動が出来たのか、自信はありませんが、一つでも、スカウト達の心に残る活動が出来るように、また一年頑張ります。

上進するスカウト達は、新しい活動に期待と不安でいっぱいかもしれませんが、頑張ってください。

上進おめでとうございます。

【副長・入内島太郎】

昨年、ビーバー隊の指導者になり、1年が瞬く間に過ぎていきました。指導者になる前は自分の子供以外の子供とふれ合う機会がなく、活動を通じて、スカウトたちとふれ合うことが、私にとっても新鮮な気持ちを抱かせてくれました。忍者ごっこやザリガニ釣り、ディキャンプでの流しソーメンなどの準備は大変でしたが、スカウトたちの笑顔を見たり、元氣いい声を聞くと、次はどんな活動をしようか、思いをめぐらします。

私はこんな元氣いいスカウトたちを「輝ける冒険者たち」と考えています。

不慣れで、足りないところもありますが、これからも、この輝ける冒険者たちと一緒に、いろいろな冒険をしていきたいと思っています。

【副長・秋山英幸】

ます。今後も活動を通じて、色々な事を学び、感じていって欲しいと思います。

【関谷 章規】

去年は一年上の子供達が揃ってカブ隊になり、ごっそり抜けてビーバー隊の活動では遠は所在なげにもじもじとしていましたが、3月のナイトハイイクあたりから慣れて楽しくなってきたようです。今度はカブ隊に行けるのを楽しみにしているようです。

私は遠を注意しつつも他の子供も含めて一緒にいられて楽しかったですが、カブ隊は親が付き添わないので少しさみしいです。この一年間楽しかったです。有り難うございました。

【大磯 亜希子】

活動を通じて興味の範囲が広がったと思います。これからも楽しく活動して欲しいです。

【波多野 三保子】

あまり保護者として参加は出来ませんが、子供達は楽しそうで、沢山の思い出が作れたのではないかなとおもいます。内気なりりも少し成長したかなと感じました。

【入内島 有美子】

天園ハイキングで、一生懸命皆で山を登れたのが印象に残っています。

【大久保 忠昌】

次年度はスカウト活動に関わる事が多くなりそうです。子供同様楽しんで参加したいと考えています。

【中村 園子】

夏キャンプの思い出

2013.7.27sat ~ 29mon

三浦ふれあいの村 神奈川県三浦市初声町和田



7月27日(土)	7月28日(日)	7月29日(月)
9:50 集合	6:30 起床	6:30 起床
10:20 JR大船駅発	7:45 セレモニー	7:00 清掃、荷造り
12:00 ふれあいの村到着	8:00 朝食	7:45 セレモニー
14:00 開村式	9:00 生物観察・貝ひろい	8:00 朝食
15:00 村内探索	10:30 防災マップトレーニング	8:30 シーカヤック
16:00 野外炊事	12:30 昼食	11:00 シャワー・着替え
18:00 夕食	14:00 ウォークラリー	11:30 感想文作成
19:30 ナイトウォーク・星空観察	19:30 夕食	12:00 昼食
20:30 入浴	20:30 入浴	13:00 閉村式
21:00 セレモニー	21:00 セレモニー	13:30 ふれあいの村出発
23:00 消灯	23:00 消灯	16:20 解散

カブたいキャンプ いろいろじま もも

1日めはどんなところかなとおもったけど、ちょっと古かったけど、ねごこちはとてもよかったです。

2日めはぼうさいラリーはいっぱいかききれないぐらいありました。またきたときもやりたいです。

3日め、きょうはしーかやっくにのりました。さいしょはちょっとこわかったけどあとからだんだん慣れてきて楽しくなりました。またのりたいとおもいました。まだちょっとあそびたくなかったけど、またこようとおもいました。

たのしかったこと おちあい としあき

ボーイスカウトのキャンプへいきました。いちばんのたのしかったのは、おふろであそんだことです。なぜならみんなであばれまくったからです。そのときのきもち、すごくすごくたのしかったです。あとはかやくにのったり、へやであそんだりしました。くるしかったことはウォークラリーです。かたづけだけだったりありました。ひなんくんれんでしょうかきの水ぼんをやりました。あとよるにかいちゅうでんとうであそんだりしました。もう1どとまりたいと思いました。たのしかったです。

海でカヤック! 大矢 貴一

今日はたのしいカヤックをのりに海に行きました。ライフジャケットをからだにそうちやくして、カヤックにのりました。でも、おしりからのらないといけませんでした。なぜかという、水の上でのるからです。前、後、右、左にカヤックはうごきます。さいごは、わざとのとびこみです。とびこみはたのしいけど、カヤックにのるのが、たいへんでした。



楽しかったカヤック 鈴木 大和

ぼくが、カブたい夏のキャンプで一番楽しかったのは、カヤックです。

さいしょは、「おぼれないかな? こわいよ」と思っていたけど、ライフジャケットがあったので、すぐなれました。そしてぼくはすぐにコツをつかみました。それは、パドルを水のふかいところまでしずませればいいんです。ふかいところまでもっていけば、ゆっくりいでもぎやくにはやくすすむんです。ぼくは、すごいと思いました。けど、ぼくは、カヤックは、はじめてだけど、カヤックにのってるカヌーには、のったことがあります。だから、けっこうなれていました。まえば、川だったけど今は、とてもとうめいどがたかくて下の岩がみえるぐらいの海だったので、とって〜もこわかったです。

今はまだ、カヤックをマスターしてないけど、つぎ、カヤックにのるときは、ぜったいに、マスターしたいです。

楽しかったラリー 大箭 明日香

7月27日、かまくら5だんのカブスカウトのキャンプがありました。一日目の夜は、うどん作りをしました。はじめてのうどん作りです。

私は、「上手にできるかな…」と心ばいになりました。

まず、小麦粉とたまご、そして水をまぜました。次は、こねます。こねていると中で、かたまってねんどのようになってきます。そして、だんだん手についてきます。私は、それを見て、「うえっ、早く洗いたいよーっ。」と思いました。

次に、それをのぼしぼうでのぼします。少し力がひつようだったけれど、面白かったです。それから、足できじをふみます。ぶにぶにしていて面白かったです。それから、具を切ります。かまぼこやねぎを切りました。たくさん切ってしまったけれど、楽しかったです。そして、うどんを切ります。その後、うどんをゆでます。その時は、火おこしをしてゆでました。火をつけるのにドキドキしたけれど、せいこうしたのでうれしかったです。さい後にデコレーションしました。

少しうどんはかたかったけれど、おいしかったです。また作りたいたいです。

ウォークラリー 小川 幸太

キャンプの二日目にウォークラリーをやりました。最初にいきなり道にまよいました。だけど、道にまよったのに気付いて行き直しました。その後、やっと石ぞうをみつめました。

次に、またまよいました。それは、お寺をさがすのに、そのお寺をすぎてしまったのです。だけどお寺を見つけることができました。次に公園でもどるか、そのままいくか、話すことに、なりました。結果はそのままいくことになりました。ぼくたちは、またまよってしまいました。だけど、すぐにまちがっていることに気付き、正しい道をすすみました。

そうして、歩いていたら、道がまちがってました。気付かないで歩いていたら、さぬま隊長に道がまちがってるといわれました。ですが、こっちの方が近道だと言われたのでそのまま帰りました。すると、山内隊長に黄色カードをさがして、おやつを見つけてくださいと手紙が書かれていました。ぼくたちは、27、28のカードを見つけれなくて、山内隊長が教えてくれました。それでメロンパンと水をくれました。たいへんだったけれど楽しかったです。

たのしかったこと

中村 甲一郎

ロンパン、天ねん水をくれてとてもうれしかった。またついせきをやりたいです。とてもたのしかったです。

今日は、海であそびました。カヤックにのってとても楽しかったし、おぼれた時のけいけんもうけて三日間とても楽しかったです。



はじめてのキャンプ

下田 恭平

ぼくがいちばんたのしかったのは、3日目の、(ひる)の、かやくです。

はじめてやったので、はじめは、むずかしいと思いました。でも、やりかたをおしえてもらったので、だんだんできていきました。それで、どんどんおくにいきました。それでちゃんともの場にもどれたからうれしかったです。

あとはいちばんつかれたのは、ウォークラリーです。なんきろかあるいたので、すぐつかれたけど、いろいろなところをみながらあるいたので、しぜんをかかさずできたりしたのでたのしかったです。

さいごに2ばんめにたのしかったのは、一日めのよるほしを見ながらねころがったことです。

たのしかったです。

楽しかったこと

松本 凌太郎

1日目は、やがいすいじばでうどんを作りました。ぼくと下田君の2人でうどんをこねたりかきまぜたりしたのでとてもたのしかったです。うどんを20分ほどゆでたあとつわにいれて食べてみたらうどんがすごくかたかったのでびみょうでした。つゆがあまりからまないのでたいへんでした。

2日目はひたすら歩きました。ウォークラリーでソレイユのおかのちかくをとおるとだんだんソレイユであそびたくなってきました。

3日目早くおきてそうじをしてすぐに海へいきました。はじめはだめだったけど、すぐにできるようになったのでよかったです。次はもっとはやくこげるようになっていいなと思います。

またキャンプにきたいです。



楽しかったラリー

宮井 駿岳

ぼくが、一番楽しかったのは、ウォークラリーです。

最初に、ぼくら、二組が出発しました。そしてしばらくあるくと海に出ました。また、しばらくあるくと広場があって、そこから見える谷のような場所にドラえものの人形のような物が落ちてありました。

そのあと、また、あるいていって公園の横を通ってまた、しばらくしたら、全く同じ公園があったのでその分、体力を使ってしまったと思いました。そして、またあるいていくと急な坂がありました。ゆっくりあるいていてもどうしても、走ってしまいました。そして、もうすぐでつくというときに食堂のお兄さんにあいました。

そのあとについてゴールについたら指令書がありました。それは、目じるしを見つけて、隊長のいる場所を見つけるという物でした。

また、ウォークラリーをやりたいです。

カブ隊のキャンプ

野口 矢真人

ぼくが一番楽しかったのは、3日目のあそびです。

海あそびでは、ボートにのり少しとおくまでいきました。さいしょは、右と、左のバランスがとれずぐるぐる回っていましたが、さいごらへんは、うまのれました。少しむずかしかったです。

そして一番つかれたのは、「ウォークラリー」それは、ふれあい村ではなく、ふれあい村のそとにでてやりました。

そして一番それでむずかしいのが地ずのみかた、なんとまがり道わかれ道しかかいてないんです。ぼくは、さきまわりをして、めじるしをさがしみんなへつたえます。しかしまわらないでいったとしても2時間ぐらい、ぼくたちは、まよってしまいましたが2時間はんぐらいでつきました。

そしてぼくが一番楽しかったのは、(一番さいしょのやつは、2番め)ウォークラリーのおわったあとにやった「ついせき」。たい長がはった紙をたどりもくてきちへとあんないしてくれます。紙は、全部で40まいそれが木やつくえんがとかにはってあります。

そしてもくてきは、おかしと、つめたいのみものがおいてありました。

カブ隊最後の夏キャンプ

高田 愛麻

私は、カブ隊を三年やっていて、今回のキャンプは三回目でした。楽しかったことは、三つあります。

一つ目は一日目の野外すいじです。「うどん」を作ってこねこねする作業をいっぱいふんで頑張りました。家では冷とうで食べているので大変でした。

二つ目は二日目にやった「ついせきハイク」です。おかしを探していたので組のみんなもはりきって黄色いカードを探していました。

一番楽しかったことは三日目の、シーカヤックと海で遊んだことです。まず、シーカヤックはみんなも楽しみにしていて私も楽しみにしていました。シーカヤックとは小さいカヌーのようなもので1人のり

の色が青、赤、オレンジの三色でした。こぎかたはオールというぼうの先にひれのついているものを使い左右にこいでいくというもので、私は前も、一回乗ったことがあって今回が二回目でした。陸から少しはなれた沖で組のみんなと合体したり回ったりしました。海の中で魚が泳いでいるのを見てみたいです。

海遊びは、波にあたりながらジャンプしたり、ねころんだりして時々、海水を飲みこんでしまったりしました。次はもうちょっと遊びたかったです。

来年はボーイ隊に進級するので、カブ隊のいい見本になれるといいです。また、最後のキャンプはとても楽しかったです。



BS ボーイ隊



第16回 日本ジャンボリー

※第23回世界スカウトジャンボリーのプレ大会として開催

会期◎2013年7月31日(水)～8月8日(木)

会場◎山口市阿知須「きらら浜」

テーマ◎和～WA: a Spirit of Unity～

参加国◎50の国と地域

参加者◎国内参加隊12,500人、外国参加隊1,500人、大会運営スタッフ2,000人

交流の楽しさ、おもしろさ を知った16NJ 笹沼 薫

ある日、隊長に「日本ジャンボリーに行かないか」といきなり言われた。ぼくはまだ小学校六年生で、中学生のことはまだ知らなかったから、ぼくは「はい」と答えた。

そして数週間後に鎌倉で第一回目の面接をやった。色々を言われたが、一つだけ聞かれた、それは「なぜ、16NJに行きたいと思ったか」ということ。そして、ぼくは「色々なんか楽しいと言っているから」と言った。そして、今年の四月ごろに第二回目の面接をやった。その時は食

べ物アレルギーやきらいなものを聞かれた。それから、中学に入って、部活などで、活動に遅れたり。休んだりした。

そして、当日の前半は部活の合宿と重なるから休んで、後半から出た。2日目ぐらいに東京と交流した。東京の人たちは思ったよりやさしく、おもしろかった。4日目ぐらいの夜は、京都と交流した。京都の人もおもしろく、楽しい。それにとり、京都の人はおみやげをくれた。

ぼくは16NJに行ってみて、みんなやさしく、おもしろくてよかったです。

「心」を育てる場だった ジャンボリー 守田 渉

僕は実際に行く前、ジャンボリーは技術を学ぶ場だと思っていました。しかし実際は、「心」を育てる場だと感じました。今回の日本ジャンボリーでは、3万人近くの人が集まりました。いつもとは違い、よく知らない人との生活や交流に最初は戸惑っていましたが、そんな中、山口県に豪雨が襲い、ほぼすべてのテントサイトが、大きな被害を受けました。しかしこの出来事が、周りに馴染めなかった僕が楽しく生活できるきっかけになったのです。サイトを修復するときに協力することで、隊の人

と話せるようになりました。また、他と比べて被害が大きかった大阪の人達と、「サイト大丈夫？」などといった話すきっかけが生まれました。

また、原隊ではやれない班長という立場を経験することができました。班員への指示や、班を盛り上げるといったことをしました。ですが慣れていない部分もあり、隊付の人に助けられていました。初めて班長という立場の難しさを感じることができてよかったです。2015年の世界ジャンボリーにいけたら、この経験を生かしていきたいです。



上に紹介したのは16NJの期間中に7回発行・配信された『ジャンボリー新聞』からの抜粋です。詳細は以下のHPをご覧ください。

www.scout.or.jp/16NJ/media/news

一年間で 成長できたこと 木村海生

この一年間はいままでよりも技術がより向上したと思う。なぜなら、キャンプやハイキングの計画書、報告書を何度も作っては作りなおし、よりいいものにしたからだ。おかげで、パソコンで文字を打つはやすさはよくなったし、文章のまちがひも減った。また、炊事もうまくなったと思う。僕は料理係になったことはあまりなく、火の番が苦手だったが、できるようになった。ブルーシートでねごをつくるキャンプの活動中に八戸副長からのアドバイスのおかげである。僕はそのアドバイスで、火をおこし、四人の中で一番はやく米がたけるようになった。

僕は次のベンチャー隊に上進するから、より自分の技術をあげ、先輩方の足をひっぱらないようにしたい。

一年を振り返って 藤澤 憲

ぼくは、今年度活動にあまり参加できませんでした。いろいろな体験をさせていただきました。毎年行う班キャンプでは、昨年よりも良いものになりました。テントのたて方や、料理を作るのも一年間でうまくなっており、快適に過ごすことができました。そのほかにハイキングもやりスキルを上げられたと思います。ですが、一番印象に残っていることは、ナイトハイクからの釣りで、ビーバーとカブと一緒にナイトウォークはしたことがあったけれど、あそこまでの距離を歩いたのは初めてでした。ふだん歩いても10キロくらいだけど、30キロ近くも歩いて足がすごく重くて大変だったけれど、今回のナイトウォークで自分はこのように歩けるんだと、とても実感しました。そのあとの釣りで2回目で、あんなに釣れないとは思っていませんでした。今度行く時にはもっと釣りについて学んでから行きたいです。

宮城をたずねて 新しきを知る ～進む復興と残る傷跡～

◎日時：2013年7月26日(金)～31日(水)

◎於：宮城県気仙沼市(大島)

◎実施者：守田なつみ・木村航洋・小早川笙

目的

自らの足で被災地へ赴き、尋ね、見て、体感することで、被害と復興状況を知ると共に改めて防災について考えるきっかけとし意識の向上を図る。また、このプロジェクトを通し奉仕精神を養い『奉仕活動』のバッジの取得も目指し、その中で、スカウトとして『ちかい』と『おきて』の実践に努める。

内容

- プログラム1 支援活動
- プログラム2 気仙沼～本吉間の調査・大島の調査
- プログラム3 大島での船釣り体験

目標

震災直後と現在との比較、ボランティア活動を通し、新たな発見に出会う。また、本プロジェクトの趣意をより多くの人に解してもらえるような報告書を作成する。

タイム記録

7月26日(金)

- 22:17 JR 藤沢駅発
- 23:20 JR 新宿駅着
- 23:35 新宿発……夜行バス……

7月27日(土)

- 6:50 石巻着
- 8:16 石巻発 柳津・気仙沼経由
- 12:40 気仙沼発……フェリー……
- 13:05 大島着
- 14:45 キャンプ場着・設営
- 15:40 周辺散策・買い出し
- 18:30 夕食
- 20:30 就寝

7月28日(日)

- 5:30 起床
- 6:30 朝食
- 7:20 大島発……フェリー……

- 8:16 気仙沼復興協会着
- 8:52 気仙沼復興協会発
- 9:26 現地着
- 9:40 作業開始
- 12:00 昼食
- 15:00 作業終了・解散
- 15:10 現地発
- 16:20 気仙沼発……フェリー……
- 16:45 大島着
- 17:30 買い出し・夕食準備
- 18:00 夕食
- 21:00 就寝

7月29日(月)

- 5:00 起床
- 6:00 朝食
- 8:00 キャンプ場発
- 8:30 レンタサイクル着
- 10:25 サイクリング→竜舞崎着
- 10:50 竜舞崎発
- 11:10 小田の浜着
- 11:23 小田の浜発
- 11:50 キャンプ場着・昼食
- 12:20 キャンプ場発
- 12:50 十八鳴浜着
- 13:00 十八鳴浜発
- 13:50 亀山着
- 14:01 亀山発
- 14:50 レンタサイクル着・返却
- 15:16 キャンプ場着・夕食準備
- 18:00 夕食
- 20:30 就寝

7月30日(火)

- 4:30 起床
- 5:00 朝食
- 5:30 船釣り
- 7:40 釣り終了
- 9:15 キャンプ場着・撤営
- 10:00 昼食
- 18:00 キャンプ場発
- 18:20 大島発……フェリー……
- 18:50 気仙沼着・夕食
- 22:24 気仙沼発……夜行バス……

7月31日(火)

- 5:30 池袋着
- 5:48 JR 池袋駅発
- 7:15 JR 藤沢駅着・解散

感想

◎チーフ・食料担当 守田なつみ

今回、私は遠征のチーフを任されたが、それぞれの予定が合わず、集会を開けなかった。そのため、計画内容を、ほとんど、私の独断で進めてしまった。もう少し連絡を取りあう必要があったと思う。一人一つのプロジェクトを担当して計画を練れば、各々のモチベーションを高める動機にもなったであろう。

遠征初日

高まる期待とは裏腹に空は曇っていた。柳津から気仙沼へ向かう為に乗車したBRT、これも今回の遠征の中で見ておきたかったものの一つである。想像していたのは、全身真っ赤な車体であったが、ゆるキャラなるものが描かれていた。どうやら、気仙沼のゆるキャラ、ホヤぼーやというらしい。なんか少しだけ、ほっとした。

気仙沼へ向かう中、窓の外を眺めていると、撤去された瓦礫の山、仮設住宅、まだ撤去してない家の跡が見えた。ここで、改めて被害状況を実感した。テレビのキャスターが解説するよりも、一目でそれが何を物語るものかを理解できた。

バスを降りると、雨が強まったり、止んだり、また降り出したりと空の様子が次第に怪しくなりだした。どうしても、雨の止んでいる時に設営を終えてしまいたい私は、急いで大島行きフェリーに乗り込んだ。

宿泊サイトのすぐ近くには、炊事場や、シャワー・トイレのある施設があり、スカウト活動をするには、贅沢すぎるほどの環境であった。この日は、翌日に備え早く寝た。

丁度、11時を過ぎた頃だったと思う。テントを突き刺すような大粒の雨と激しく轟く雷が目覚めた。そこに近寄ってくる足音も聞こえた。キャンプ場の管理人さんである。雷雨が激しい為、避難誘導に来て下さったとのこと。避難場所は、シャワー・トイレ施設の2階のホール。すぐに避難し、そこにあった簡易毛布に包まって寝た。テントよりも寝心地が良く思えた。

2日目

寝過ごした!と焦って飛び起きたがまだ5時だった。しかし、今日はサイクリングを変更して、ボランティア活動することになっていたから、最低でも6時40分の大島発のフェリーに乗りなくてはならなかった。とても間に合いそうには無かったが、行かなければ何も始まらないだろうと思い、気仙沼に渡ることになった。フェリーを急いで降り、タクシーに乗り込んだ。運転手さんの話によると、昨夜の雷雨は、この辺りでは珍しいとのことだった。ある意味で、貴重な体験が出来たとプラスに捉えようと思った。

気仙沼復興協会は、スーパーの跡を利用したもので、外装は普通のスーパーであるが、内部には、シャベルだったりとか支援に必要な用具が置いてあった。ボランティアに来ていた人は、自分たちを含め、10人程。何度かボランティア活動を経験している人も多かった。私達を、車で作業地に連れて行ってくれた方もそうである。残念なことに名前がどうしても思い出せないで、Aさんと書いておく。Aさんは、既に4回ボランティア活動を経験しており、とても気さくな方であった。

作業の内容は、前日の大雨で土砂崩れが起き、家屋に入り込んだ土砂を取り出すことであった。午前中、私達が訪問したのは、土砂崩れにより家の側溝が埋まってしまったお宅。その土砂をシャ

ベルで掘り返し、リヤカーに積み、別の場所に土砂を移しての繰り返し。午後からは、もう一軒の作業に加わった。こちらの方が被害がひどく、バケツリレーで家の中から出てきた土砂を運ぶ最中、泥の中から時より見える、しゃもじや菜箸の頭に、生活感を感じられた。今回の作業は、直接的に震災に関わるものでは無かったが、家主から少しだけ震災のお話を聞くこともできた。貴重な体験となった。

作業の後、Aさんは見せたいものがあると言いき、私達を車に乗せてくれた。窓の外から目に飛び込んで来たのは、津波の影響で流された家の跡、駐車場があったであろう跡や表札だけが残っているものなど、ところどころお花も供えてあった。Aさんは、家のお墓のようだ、と言っていた。

共徳丸という大きな漁船は、ニュースでも見たことがあった。まず、その大きさに驚き、そして福島から流れてきたと聞き、再び驚いた。全長60m。それほど大きな船が車道のすぐ隣にあるのだ。これだけ大きな船さえも運んでしまう津波のパワーに圧倒された。

次に降車した地は、安波山という比較的小さな山であった。被災地と被害の少なかったところがくっきりと分かれて見えた。あの時の光景は今でも目に焼き付いている。実に、震災の残酷さを思い知らされた一日であった。



共徳丸。手前の小さいのが私達。



ベンチャー隊

平成25年度 夏期遠征報告



小田の浜から、船に乗り沖に出る。



2回目に釣り上げた大きいアイナメ。

3日目

この日は、朝早くから太陽が雲の隙間から顔を出し、まさにサイクリング日和となった。今日の予定は、ぐるりと島を一周すること。大島は本当に小さな島である。ほんの数時間で島の半分まで辿り着いてしまった。車の通りがほとんどないので、思う存分走れることがとにかく最高であった。大島の名所をいくつか回ったが、一番記憶に残っているのは、十八鳴浜(くぐりはま)である。砂を踏むと「キュッキュ」と音が鳴ることから、9+9=18の十八鳴浜と名付けられた。私は、その砂浜の上をどうしても歩いてみたかったのだ。ところが、震災前には、とても綺麗であった砂浜は跡形も無く、倒れた木々が足の踏み場がほとんどない状態であった。狭い砂の上を歩くとキュッと音を出した。手に取り、じっくりと観察してみると、小さな結晶な粒が見えた。とてもさらさらしており、私の住む町の海の砂とは比べ物にならない程綺麗だった。後から調べてみたが、この鳴き砂は石英粒の砂の摩擦によって起こるようだ。

最終日

起床は4時だが、最も楽しみにしていた初めての船釣りが出来ると思うと自然に目が覚めた。潮風に吹かれて、船で沖へ向かう間、波は想像していたほど荒くはなく、これなら船酔いになることもないと考えていた。釣り糸を垂らして、しばらくすると木村が一匹フグを釣り上げた。本人は、食べれないものを釣ったと残念がっていたが、

前日来た体験者は何も釣れなかったと聞いていたので、私はやる気がわいてきた。木村が釣り上げて、数分後。すぐ私の針にも、魚が食い付いた。だが、少し焦りすぎてしまったのと魚が食い付いてきた喜びで、少しリールを巻き急いってしまった。

そのため、魚の口から針は外れ、惜しくも最初の当りは逃してしまった。そのことを可哀想に思っか、私が最初に釣り上げた魚は、おじさんから当たりの竿を譲ってもらったものだった。釣れたのは、大きき10センチ程のアイナメ。行き車の中で『今の時期の当りは何ですか?』と聞いたときに、『アイナメ』と言っていたので釣れて嬉しかった。その後、すぐに私の竿が大きく、しなった。1匹目とは違い、ぐいぐいと竿を持ってかれそうになった。今度は、逃さないようにと慎重にリールを巻いていった。水面に魚が見えると想像以上に大きくて驚いた。30センチのアイナメ。このサイズの魚を釣ったのは自分の中でも初めてだった。釣り上げると、ほんとに安心したせいか、急に気分が悪くなって、寝てしまった。目を開くと、船の乗り場に戻っていた。木村と私が船酔いでダウンした為、予定よりも早く戻ってしまった。今思えば、船酔い対策をすべきだったと本当に後悔している。もっと釣りの時間を楽しみたかった。

帰って徹営を済ますと少し早めの昼食をとった。メニューは勿論釣った魚。アイナメを2匹。塩焼きにし、そのものの自然の味を楽しめるようにした。ほどよく

油がのっており、まさに絶品である。なにより、自分で釣り上げたということが最大の調味料となった。

今 回、宮城に足を運んで印象が180度変わった。宮城の人々は誰も皆優しく、私達を温かく迎えてくれた。まだ、完全には修復が終わったわけでは無いが、一生懸命地元を盛り上げようとしている人がたくさんいる。多くの苦しみ乗り越えながら、笑顔でいる人がたくさんいる。そういうことを、肌で感じる事ができただけでも今回の計画は大成功だと思う。

最終日、キャンプ場で出会った男性は、何か自分が力になれることはないかと考え、出身である福岡を飛び出し宮城に住みついた、と話をしていた。キャンプ場には、大島の良さを多くの人に知ってもらいたいと、被災地の子供たちとの交流イベントの下見で来ていたらしい。彼は、こうも言っていた。『自分のやっていることで、将来日本を支えていく今の子供たちに何かを伝えられたら良い』

この言葉に私は心動かされた。それと同時に、自分にも被災された多くの人に何かできることはないかと考えた。考えに考え抜いた結果、やはり多くの人々に今回の私達が体験したことを知ってもらいたいと思った。小さな事かもしれないが、それを聞いて下さった方に何か伝えれば良いのだ。

最後に、今回遠征にあたって関わって下さった方、宮城の方々、大島、その全てに感謝します!

◎会計・備品担当 木村航洋

浦さんに送られ出発した初日、夜行バスではすぐに眠りについた。気がついたときには、到着していた。その後は電車を乗り継ぎまたBRTに乗りやつの思いで気仙沼駅に着いた。そこからはフェリーまで歩きフェリーで大島へ。天気は降ったりやんだりの天気でもモチベーションはがた落ちだった。やんでいるすきに即座にテントを張り、買出しへ。その日はすぐに寝た。寝れるだろうと思っていたが、突如雷を伴うとてつもない大雨に襲われてテントそばの多目的ホールに避難するようにと管理人さんが来た。中に行くけど守田が先に寝ていた。毛布を借りて寝静まったところに隣のテントの家族も避難してきた。雷に邪魔されながらもその日を終えた。

2日目、軽く寝坊し(まあそりゃそうだろう)、あわてて朝食と昼食の準備をしてフェリーに乗り気仙沼へ。タクシーを使いボランティアセンターへ向かった。そこはもともとスーパーのようで中には用具がたくさんあった。三浦さんがいないことを怒られながらも活動に参加した。今回は震災と直接の関係はなかったが土砂だけはすさまじく疲れた。バケツリレー方式ではあったが一つ一つが重たく大変だった。その後同じボランティアに参加した人に気仙沼を案内してもらった。打ち上げられた巨大な船、山から見た被害の大きさ、言葉に困った。フェリー乗り場まで送ってもらい再び大島へ。さっさと夕飯をすませてお風呂で疲れをとり眠りについた

3日目、またまた軽く寝坊した。昨日と違いサイクリングなので余裕を持って準備しサイクリングに出発……と思ったが突如壁にぶつかった。小早川が安定して自転車に乗れなかったのだ。またまた今にも転びそうな感じで見てて怖い。電動アシストが付いていたのである程度は思ったが駄目だった。景色を楽しみ人とふれあい多くのものを学んだ。そのころには乗れるようになり安心した。しかし、小早川は最後の亀山は断念した。体力的に無理だと。無理をさせるわけにもいかないのでそのまま守田と二人

感想

で向かった。景色は霧で何も見えなかったのでショックだった。戻ってきて小早川もつれて買い出しへ行き自転車を返却。夕飯をとり風呂へ。そしてとんでもないことに気付いた。小早川の腕が日焼けによって真っ赤になっていた。本人は大丈夫というが絶対大丈夫ではないと思った。

4日目、今更晴れるなと……っと思いつつ即座にテントを干した。雨と悪天候で濡れていたのが大変だった。乾いたころには昼食も済ませ片づけて受け付けてチェックアウト、時間があつたので風呂の後そのまま爆睡。今までの疲れが一気に来たのかもしれない。その後フェリーに乗り気仙沼へ。近くの焼肉屋で夕飯にした。疲れていた超絶

においしかった。そして気仙沼から藤沢へ。そこで守田とは別れ僕は小早川家の車で家に。帰ってもやはり即寝た。

長いようでとても短く感じたこの4日間、大島でも気仙沼でも多くの人とふれあい、優しさを感じた。車で気仙沼を詳しく案内してくれた人、時間を過ぎていても料理を出してくれた人、バスの時間まで店にいさせてくれた人などなど。ここまで優しくされると申し訳なかったがとてもありがたかった。復旧にはまだまだ時間がかかりそうだ。これからも自分たちにできることを探し少しでも協力し復興の支援をしたい。

がんばれ、日本!



一件目のお宅。家の側溝から土砂を掘り出す。



バケツリレーで土砂を運ぶ。家の前の坂が急で大変だった。使い終わったバケツは、川の水で洗う。

◎安全担当

小早川 笙

今回の遠征は途中参加のため『遠征? なにそれ?』状態で始まって最初は不安で仕方がなかった。はっきり言えば途中リタイア覚悟、命がけの遠征になると思っていた所だ。だが仲間の支えがあり、こんなにも気持ちを和らげてくれるのだと改めて思い知らされた。

旅立ちの26日、恋しい家だと思いつつ駅から旅立った。こんなので大丈夫かなという気持ちはまだ消えない。

活動初日、つまり27日の設営の日から最悪で沢山だったのだ。午前は何も起き無かったが、大雨が降ってきて次第に雷が鳴り始め、緊急避難までする始末。『こんな事、6日も続けられるのか?』と思ってその日は幕を閉じた。

28日は軽装備でボランティア活動。確かに大変だが他の人との交流や、いつも体験出来ない暖かさがあった。これが団結力という物なのだろうか? ただ服は

汚れる、休みが少ない等が目立ち、ボーイスカウトじゃ無ければ確実にやってなかっただろう。

29日はサイクリング。『やった! サイクリングだ!』と思い自転車に乗って見たら、とてもじゃ無いが乗れているとは言えなかった。乗っては押してと言うべきだろう。これでは二人に迷惑を掛けてしまうと思い、一人でテントの中に居る事を決意し提案してみた。だが答えはスパルタと来た。『そこで練習してついてこい! 習うより慣れろだ』。その助言を頭に入れ頑張った先に楽しさがあると信じて。結果は最悪で最高な物となった。確かに楽しくてたまらないのだが、途中でこげなく成る程体力を使ってしまっていて、極限状態に陥ったと言えれば良いのだろうか。一回湖に落ちそうになり死ぬかと思った位である。やっぱり二輪は安定しないと。思った。

30日は釣りだ。『目標は三匹かなあ?』それが甘かったようだ。最初に釣ったのは木村。だが食べられないフグだったのだ。残念! 2回目は守田で食べられる魚をGET! 3回目も守田。早く掛かんな

いかなと思っていたら、木村が船で酔ってしまった。乙、木村。遂に掛かったと思っただけで逃げられた! 悔しい! そんな事をしてると守田までもが酔ってしまう。二人とも乙。これは引き返した方が良く判断し、1時間程早めに帰還した。そして、帰りの支度に突入!

仲間と『思ったより軽い旅だったな!』などと話してお土産を買ったり、バスを待ったり。『色々あったのにこんなにあっさり終わる物なんだな』とバスで考えながら眠りについた。

最終日。帰るまでが遠足、に乗っ取り、帰りまで遠征だと気を引き締めた。そこで事件は起こった。切符が無いではないか!? 焦りパニックで結局お金を払う事になった。『後は報告書だけだな〜』と木村が言った。報告書? 何だそりゃ。

今まで分からなかったが、こんなに大変な事だとは思わなかった。

まとめると仲間へ感謝! 大島の人に感謝! 皆に感謝! 辛いが楽しい日々をありがとう。



フェリーに託された、宮城県へのたくさんのメッセージ。